

# マサバ太平洋系群の資源状況及び諸問題

令和 8 年 6 月 15 日  
水産総合研究センター

## 1 資源の状況(「令和 7(2025)年度マサバ太平洋系群の資源評価」より)

### (1) 資源量の推移(図 1)

- 2004～2017 年は、豊度の高い年級群(2004, 2013)の加入により増加。
- 2024 年の資源量は 93 万トン・・・資源は 2019 年以降減少傾向

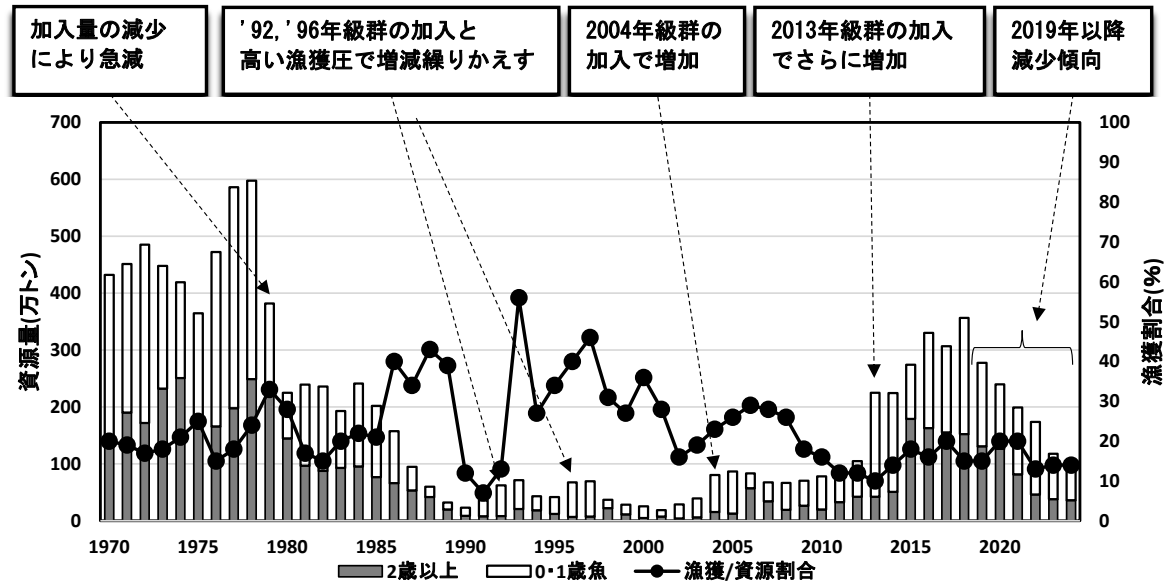


図 1 マサバ資源量と漁獲割合 (漁獲量/資源量) の推移

### (2) 漁獲量の推移(図 2)

- 漁獲量は概ね資源量と同期して推移し、2018 年以降減少傾向。
- 黒潮が北偏した 2022 年以降、大幅に減少。
- 2024 漁期年の漁獲量は 12.3 万トン・・・直近 10 年で最大の不漁

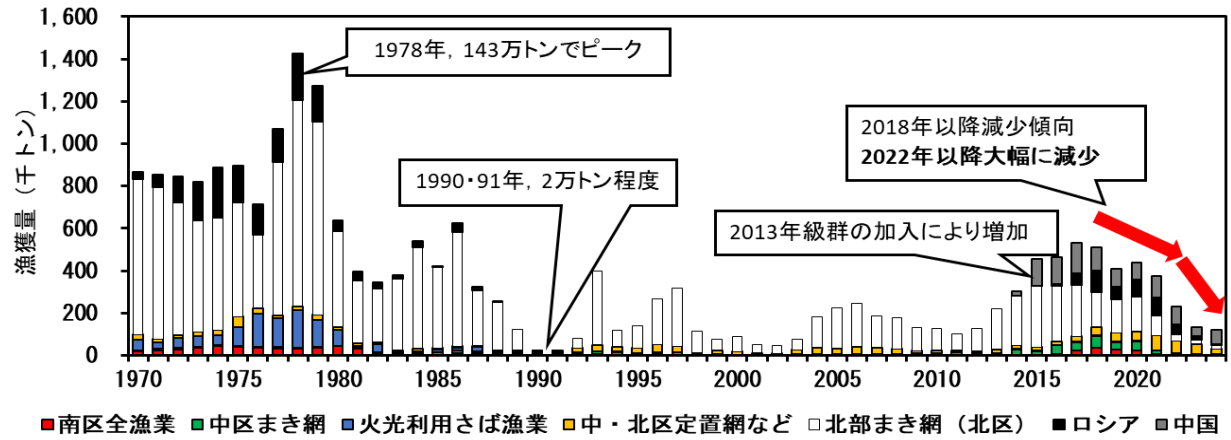


図 2 マサバ漁獲量 (漁期年：7 月～翌年 6 月) の推移

## 2 マサバ太平洋系群をめぐる諸問題

### (1) マサバ太平洋系群の資源再建計画の策定について

○マサバ太平洋系群は、令和7年度資源評価で親魚量 9.6 万トンとなり、限界管理基準値の 14.2 万トンを下回った。このため、国は資源管理基本方針に基づく資源再建計画の策定を進めることとしている。今後、令和9年4月に関係都道府県、大臣許可漁業関係団体との意見交換会、4～5月にパブリックコメント、7月に水産政策審議会への諮問を経て、7月に計画が策定される見込み。

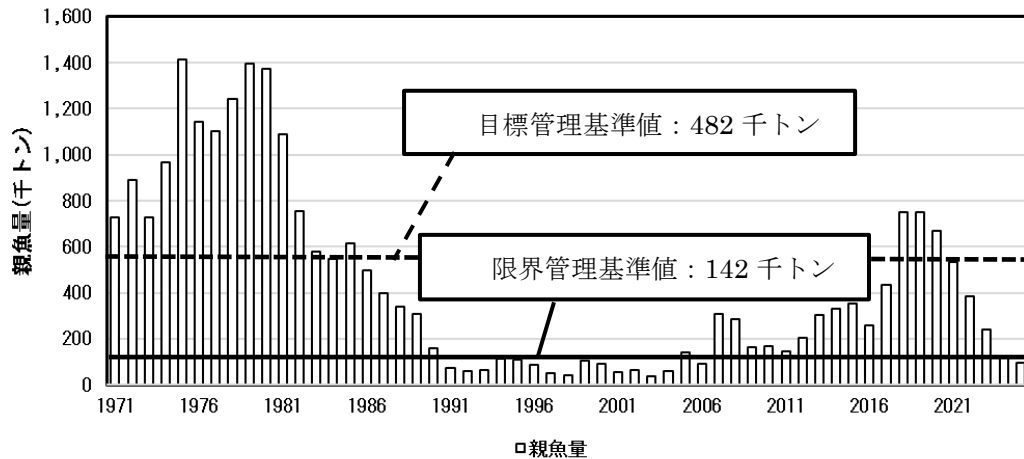


図3 2024年度までのマサバ親魚量の経年変化

### (2) マサバ小型魚が主体で漁獲されている可能性

○北部太平洋まき網による2025漁期年のうち12月～4月における銚子漁港でのさば類の水揚量は、合計で7,442トン(前年同期比+92.8%、5か年平均同期比-84.7%)となり、資源量が減少しているにもかかわらず、水揚量は前年を上回った(図4)。

○一方、マサバの漁獲サイズは、2025漁期年は20～22cmが主体であり、2024漁期年の27～32cmが主体と比較して小型化が顕著となった。親魚量の減少により未成魚の漁獲に依存せざるを得ない状況となった(図5)。

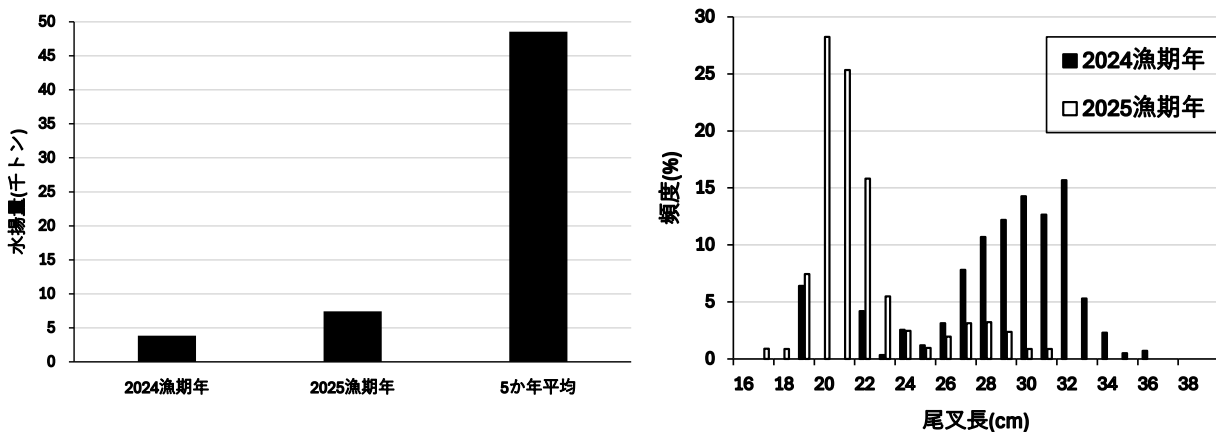


図4(左図) 北部太平洋まき網による銚子漁港でのさば類の水揚量

図5(右図) 銚子漁港で水揚げされたマサバの尾叉長組成